

県内野党共同で 共謀罪反対訴え

福井駅西口広場

政府が共謀罪の趣旨を盛り込んだ組織犯罪処罰法改正案を国会に提出しようとしていることを受け、県内の野党は十九日、福井市のJR福井駅西口広場で「共謀罪反対」を訴える街頭活動を実施した。

民進、共産、社民の三政



共謀罪の法案に反対する県内野党の代表者たち(奥) 福井市のJR福井駅西口広場で

レイアウト・石田 秀武

党と政治団体縁の党の関係者ら三十人ほどが参加。各野党に共同活動を呼び掛けた市民団体「ピースふくい」の屋敷紘美共同代表は「二人以上の人が犯罪を相談すると処罰につながる。盗聴、密告など日本が監視社会になる」と訴えた。

民進党県連の山本正雄代表は「国民の自由や権利を縛るものには反対する」と主張。共産党県委員会の金元幸枝書記長は「恐ろしい法律をつくらうとしている」と、社民党県連の龍田清成代表は「私たち庶民が、いつの間にか犯罪者にさせられかねない」と述べた。

政府は二十一日に同法案を閣議決定し、今国会に提出する方針。ピースふくいは二十四日午後六時から、福井市のフェニックス・プラザで共謀罪反対の県民集会を開く。(尾嶋隆宏)